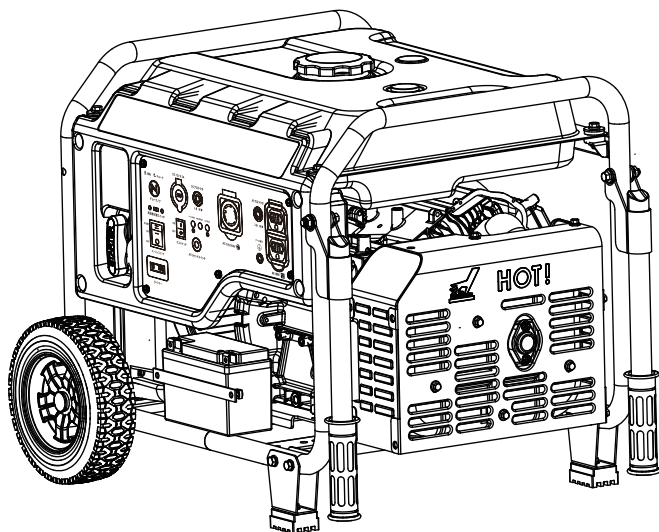


JESIMAIK (ジェスマイク)



**インバーター発電機JM6000XiE
取扱説明書**






はじめに

このたびは「JESIMAIKインバーター発電機JM6000XiE」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

 危険	人が死亡または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。
 禁止	取扱においてその行為を禁止します。
 指示	指示に基づく行為を強制します。

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくために -----	1~3
各部の名称と取り扱い -----	4~9
・各部の名称 -----	4
・コントロールパネル部 -----	5
・各部の取り扱い -----	6~9
運転前の点検 -----	10~13
・エンジンオイルの給油 -----	10
・エンジンオイルの量の確認 -----	10
・燃料の給油 -----	11~12
・本機周辺の点検 -----	13
発電機のかけ方 -----	14~19
・エンジンの起動 -----	14
・エンジンの停止 -----	15
発電機の使用方 -----	16~20
・使用環境 -----	16
・配線接続方法 -----	16
・AC電源の取り出し方 -----	17~19
・DC電源の取り出し方 -----	19
・発電機の接地 -----	19
・適用範囲 -----	20
・サービスとメンテナンス -----	20
点検・整備の仕方 -----	21~24
・定期点検表 -----	21
・エンジンオイルの交換 -----	21
・点火プラグの点検と清掃 -----	22
・燃料タンクストレーナーの清掃 -----	22
・エアクリーナエレメントの清掃 -----	23~24
一時保管・長期保管 -----	25
・一時保管の場合 -----	25
・長期保管の場合 -----	25
不具合時の対応 -----	26
仕様諸元 -----	27
保証期間およびお問い合わせ -----	28
保証書 -----	29

安全にお使いいただくために

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

危険

❗ 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁

タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。燃料はエンジンを止めてから補給してください。燃料への引火や火災の原因となります。

⊘ 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない

建物およびその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

⊘ 燃料をこぼさない

燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

⊘ 車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所では運転しない

エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

⊘ 傾斜地で使用しない

平坦・水平で硬い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップやキャブレターから燃料がこぼれ、火災の原因となります。

⊘ 本機の周りにガソリン、または危険物や燃えやすい物を近づけない

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。

⊘ 電力会社からの電気配線には絶対接続しない

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因となります。

⊘ 雨の中や水のかかる場所では使用しない

雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。

安全にお使いいただくために

危険

本機を分解、修理、改造しない


取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う

人身傷害や機械の破損を防止することができます。手や足をはさんだり、思わぬ事故が起きる原因となります。

長期保管前には燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する


抜き取った燃料は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。

 点検や清掃時は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチをOFFの位置にし、点火プラグキャップを取り外す
エンジン停止直後のエンジン本体や排気口などは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

警告

熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない

やけどの原因となります。

 本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない
エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れない感電の原因となります。

 エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない
火災の原因となります。

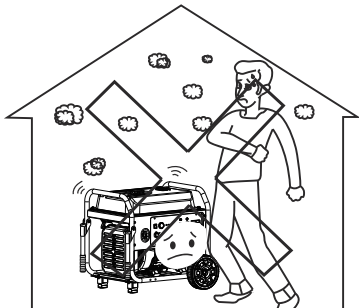
使用中に音、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止する取り外す

お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

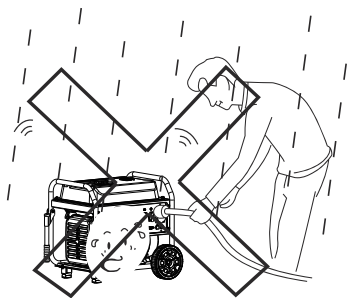
運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう水平を保つ

エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

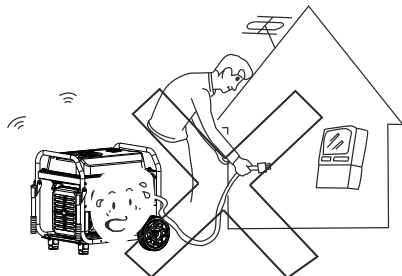
安全にお使いいただくために



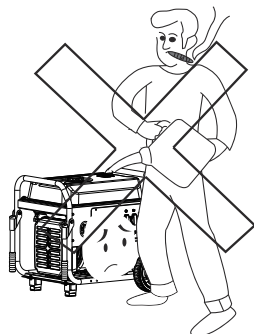
室内では絶対に使用しないでください。



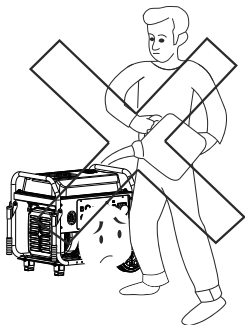
雨の中や水のかかる場所では使用しない。



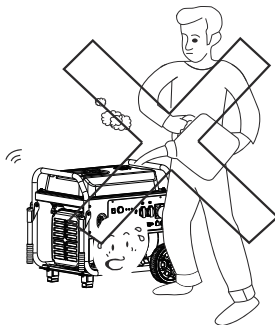
起動前、電気製品を接続しないでください。



給油中はタバコやマッチなどの火気を近づけないでください。



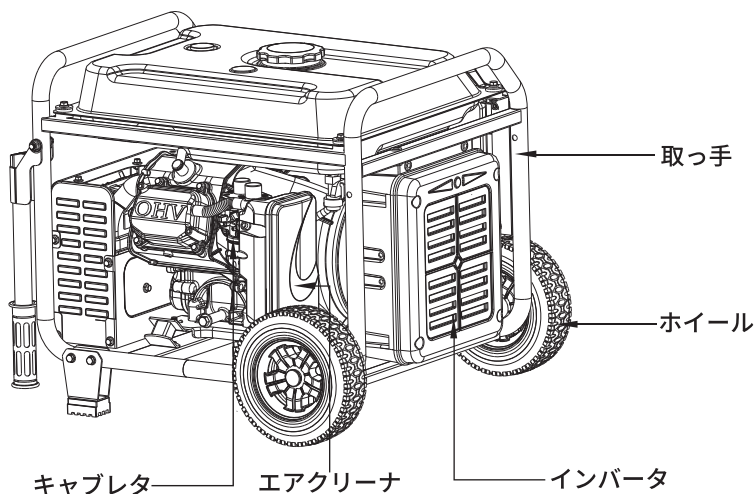
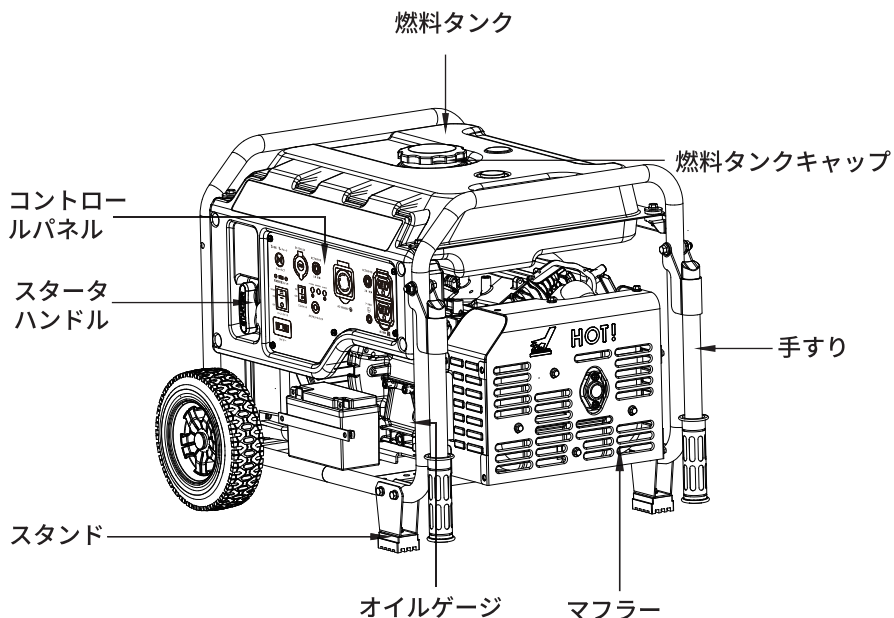
給油中は燃料をこぼさない。



燃料の給油は必ずエンジンを停止し、エンジンが十分冷えてから行ってください。

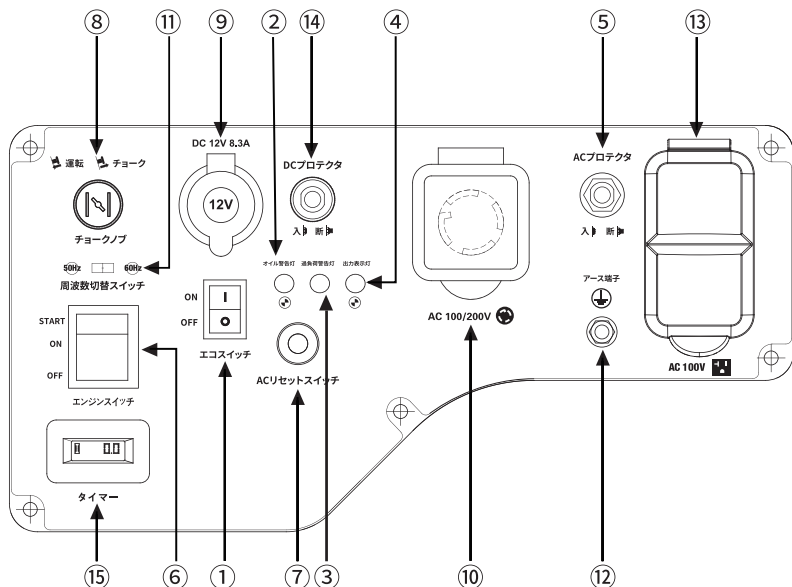
各部の名称と取り扱い

各部の名称



各部の名称と取り扱い

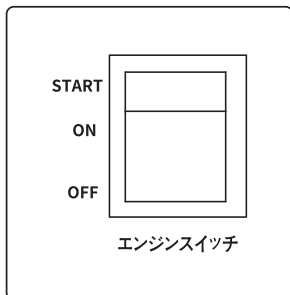
コントロールパネル部



①エコスイッチ	②オイル警告ランプ	③過負荷警告ランプ
④出力表示ランプ	⑤ACプロテクタ	⑥エンジンスイッチ
⑦ACリセットスイッチ	⑧チョークノブ	⑨DCシガーソケット 12V/8.3A
⑩AC出力コンセント100V/200V	⑪周波数切替スイッチ	⑫アース端子
⑬AC出力コンセント 100V	⑭DCプロテクタ	⑮タイマー

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

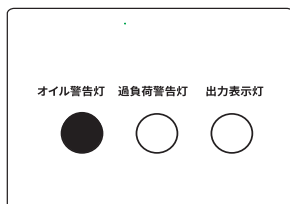


1. エンジンスイッチ

START:本機をセルスタートでエンジンを始動する時の位置です。
セルスタート式:エンジンスイッチを「START」の位置に押しします。約2～3秒間押してから離すとエンジンが起動します。

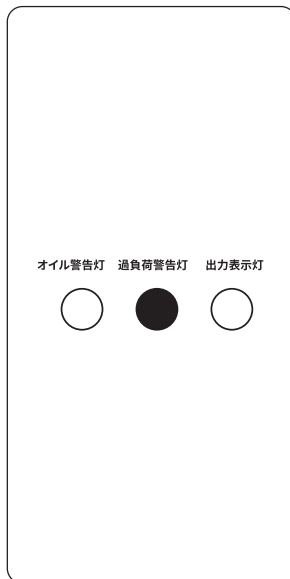
ON:本機をリコイルスタートでエンジンを始動、運転時の位置です。リコイルスタート式-エンジンスイッチを「ON」の位置にして、リコイルスタータークリップを引き出してエンジンを始動させます。

OFF:本機の停止や保管時、運搬時の位置です。



2. オイル警告灯(赤)

本機にはオイルが少ない場合に自動的にエンジンが停止するオイルアラート機構が内蔵されています。エンジンオイルが不足し焼付が起こる前にこの機構が働き、エンジンを停止させオイル警告灯が点灯します。その際、エンジンオイルを規定量まで給油して、エンジンを再始動しないでください。



3. 過負荷警告灯(赤)

発電中に使用電気機器に異常があった場合や、過負荷のとき出力表示灯が消え過負荷警告灯が点灯し、電気が取らせなくなります。この時点でACプロテクタが作動し、発電機と接続された電気機器を保護するために発電を停止します。出力表示灯(緑)が消え、過負荷警告灯(赤)が点灯しますが、エンジンの運転は停止しません。
※注意:過負荷警告ランプが点灯および出力表示ランプが消灯し、電気が取り出せなくなったとき:

- ・本機から使用している電気機器を取り外してください。
- ・電気の取り出しすぎがないか:使用する電気機器は必ず定格出力内で使用してください。
- ・冷却空気の吸入口でゴミや異物の吸い込み、詰まりが無いよう、注意・点検をしてください。関連するコントロールエレメントに異常が無いか確認してください。
- ・点検完了後、エンジンを再始動してください。

※注意:コンプレッサー、ポンプもしくは冷蔵庫のような大きな起動電流が必要なデバイスにご使用する場合、最初は過負荷警告ランプが数秒間点灯する可能性があります。これは前述の故障ではありません。

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

オイル警告灯 過負荷警告灯 出力表示灯



4.出力表示灯(緑)

発電が始まると点灯します。インバーターが使用可能であることを示します。

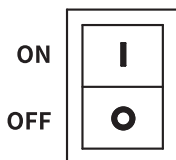
DCプロテクタ



入 断

5.DCプロテクタ

DC出力ポートの温度がDCプロテクタ(過熱保護装置)に設定された温度を超えた時にDCプロテクタボタンが飛び出して“断”になり、電気が取らせなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからDCプロテクタを“入”にします。



エコスイッチ

6.エコスイッチ

1)“ON”

接続された負荷に応じて発電機の回転速度を制御することができますので、低燃費と低騒音を得ることができます。

2)“OFF”

負荷が接続されているかどうかにかかわらず、エンジンは定格回転数で運転されます。

※コンプレッサー、ポンプもしくは冷蔵庫のような大きな起動電流が必要なデバイスにご使用する場合または負荷が50%を超える場合は、必ずエコスイッチをOFFにしてください。

7.燃料コック

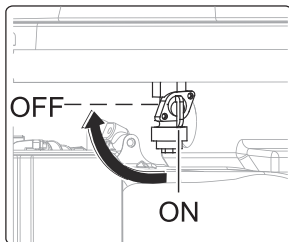
燃料の流れを制御し、エンジンの始動、停止を行います。

OFF(閉)のままだとガソリンが流れません、エンジンが始動できません。

・ON(開):エンジンをかけるときの位置です。

・OFF(閉):初期状態です。停止および保管、運搬時の位置です。

エンジン停止後は必ず燃料コックをOFFにしてください。



各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

 運転  チョーク



チョークノブ

8. チョークノブ

エンジンに入る空気量を調整し、エンジンを始動させる際に使用します。

・引き抜き(チョーク): エンジンが冷えている状態からエンジンをかけるのをかけるときの位置です。リコイルスターターリップを引き、エンジンがかかりしばらくしたら、チョークノブを押し込み、 「運転」の位置にしてください。

・押し込み(運転): エンジンが温まっている状態(再始動、夏季など)からエンジンをかけるときの位置です。



ACリセットスイッチ

9. ACリセットスイッチ

過負荷警告灯が点灯および出力表示灯が消灯し、電気が取り出せなくなったとき、このボタンを押してリセットすることで、出力表示ランプが点灯し電気の供給が再開されます。このボタンを押す前に下記を確認してください。

- ・本機から使用している電気機器を取り外してください。
- ・電気の取り出しすぎがないか: 使用する電気機器は必ず定格出力内で使用してください。

ACプロテクタ



入  断 

10. ACプロテクタ

AC出力コンセントの温度がACプロテクタ(過熱保護装置)に設定された温度を超えた時にACプロテクタボタンが飛び出して “断” になり、電気が取らせなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからACプロテクタを “入” にします。

アース端子

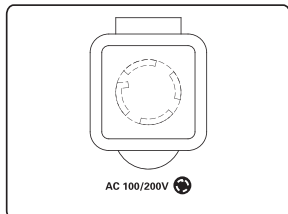


11. アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。発電機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地(アース)してください。

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

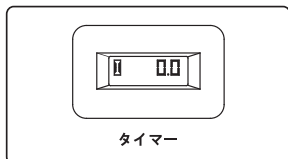


12.AC出力コンセント100V/200V

このコンセントに流せるアンペア数は30Aまでとなります。

※注意:電気機器の消費電力の合計が2500W(100V時)/5000W(200V時)を超えないようにしてください。また、このコンセントから電気を取り出すには、NEMA規格L14-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用してください。

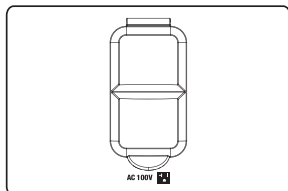
参考プラグ:アメリカン電機(株)製 4312N-L14



13.タイマー

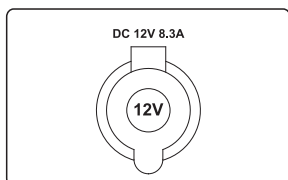
エンジンの稼働した累積時間を積算する搭載型アワーメーターです。

エンジン稼働の累積運転時間を表示します。



14.AC出力コンセント100V

このコンセントに流せるアンペア数は20Aまでとなります。このコンセントから普通の電気機器に給電可能です。電気機器の消費電力の合計が2000Wを超えないようにしてください。



15. DCシガーソケット12V/8.3A

シガーソケットから車バッテリー、車載冷蔵庫などの直流12Vの車載用電気機器に給電できます。

運転前の点検

エンジンオイルは出荷時には入っていませんので、必ず給油してください。なお、工場で試運転をしているため、若干オイルが内部に残っている場合があります。ご了承ください。

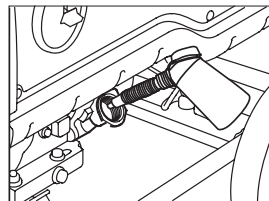
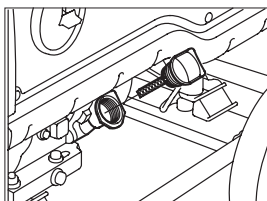
エンジンオイルの給油

1. オイルプラグを外してオイルジョッキ（ロート）をオイル給油口に差し込み、本機を水平にしてエンジンオイルを規定量給油します。
2. 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

推奨オイル：

4サイクル用エンジンオイル
SAE10W-30もしくは
10W-40API分類SE級以上

エンジンオイル規定量：0.85L



エンジンオイルの量の確認

1. オイルゲージを引き抜き、一度ウエスで拭き取ります。
2. オイルゲージを差し込んで（注入口からオイルゲージをねじ込まないで）から引き抜き、エンジンオイルが付着している部分の範囲で残量を確認します。
3. オイルゲージにはレベル線がついており、エンジンオイルがレベル線の上限付近まで付着していれば適正量です。

⚠ 注意



禁止

・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。



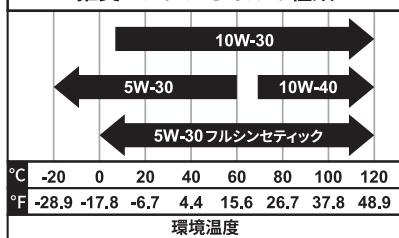
指示

・工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。
・オイル給油キャップは確実に締めてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
・初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。

※一般的な使用において推奨されるオイルの種類は10W-30の自動車用オイルを推奨します。ただし、「推奨エンジンオイルタイプ」の表に記載されている従来型オイルを使用しても、エンジンの慣らし運転期間の最初の5時間を含め、一般的な使用には差し支えありません。極端な温度下で発電機を運転する場合、下記の表を参照してください。

運転前の点検

推奨エンジンオイルの種類

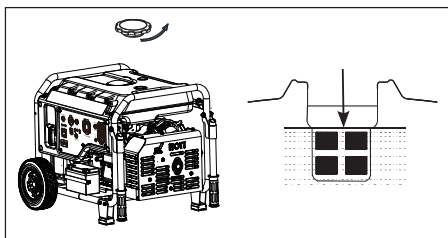


燃料の給油

燃料タンクキャップを外し、燃料を給油します。作業は本機を水平にして行ってください。2回目以降の使用時：中にガソリンが残っていても劣化している恐れがあります。30日に1回、新しいガソリンに交換してください。



使用燃料：
無鉛ガソリン(自動車用レギュラーガソリン)

燃料タンク容量：
14.5L (赤レベルまで)





運転前の点検

⚠ 警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none">・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。・エンジンが熱い時は給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。
 指示	<ul style="list-style-type: none">・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。・給油中に、燃料をこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。・給油後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。

⚠ 注意

 禁止	<ul style="list-style-type: none">・燃料は規定量以上（ストレナーナの赤レベル以上）、給油しないでください。燃料が漏れるおそれがあります。・軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。・古い燃料は使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。
 指示	<ul style="list-style-type: none">・ガソリンは自然劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。・燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。・ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

運転前の点検

本機周辺の点検

- ・燃えやすい物 (特にガソリンやエンジンオイルなど) や危険物は置いていませんか。
- ・周囲に火の気はありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。

発電機のかけ方

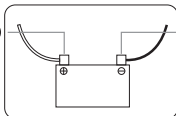
エンジンの起動

(1) 発電機からすべての電気負荷を切り離します。電気機器を接続またはオンにした状態で発電機を始動または停止しないでください。予期せぬ事故や感電の原因となります。

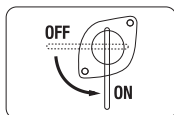
(2) バッテリーの正極 (+) と負極 (-) を接続します。

1. バッテリーの負極のボルトを緩めます。
2. 負極線 (黒色) を負極のボルトを通してバッテリーに取り付けます。
3. 正極線 (赤色) の取り付け方法は同じです。

負極線 (黒色) 正極線 (赤色)

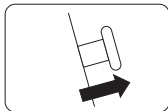


(3) 燃料スイッチを「ON」位置にします。

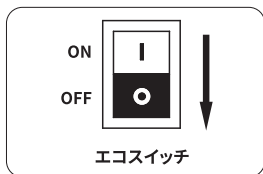


(4) チョークノブを引き抜きます。

注意: エンジンが温まっている状態の場合、チョークレバーを引き抜く必要はありません。



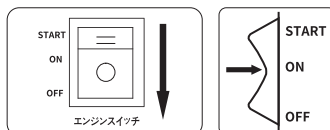
(5) エコスイッチを「OFF」の位置にします。



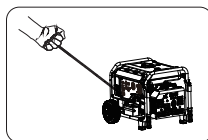
(6) 始動方式を選択する:

A リコイルスタート:

1. エンジンスイッチを「ON」の位置にします。

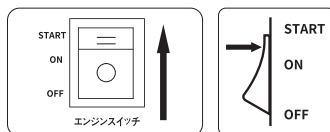


2. リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。

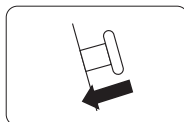


Bセルスタート:

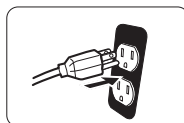
エンジンスイッチを「START」の位置にして、2~3秒待ってエンジンを始動させます。



(7) 起動後、エンジンの回転が安定したら、チョークノブを押し込みます。約3~5分間、無負荷で暖機運転を行ってください。



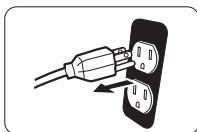
(8) 電気器具のプラグをコンセントに接続します。



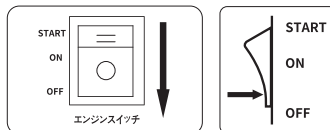
発電機のかけ方

エンジンの停止

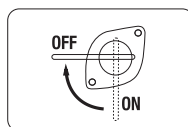
1. 電気器具のスイッチをOFFにします。電気器具のプラグをコンセントから抜きます。電気機器を接続またはオンにした状態で発電機を始動または停止しないでください。予期せぬ事故や感電の原因となります。



2. エンジンスイッチを[OFF]にしてエンジンを停止します。



3. 燃料スイッチをOFF(閉)にします。



警告



禁止

- 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。
- エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。

注意



指示

- リコイルスターターグリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、20分間ほど発電機を換気性の良い場所に置いて、チョークノブを押し込み、再度起動を試みてください。

発電機の使用方

使用環境

- ・適用温度: $-5^{\circ}\text{C}\sim 40^{\circ}\text{C}$
- ・適用湿度: 95%以下
- ・適用標高: 1500m以下の地域 (標高1000mを越えると大気圧が低くなり空気密度が薄くなるため、発電出力が低下することがあります。)

標準大気条件

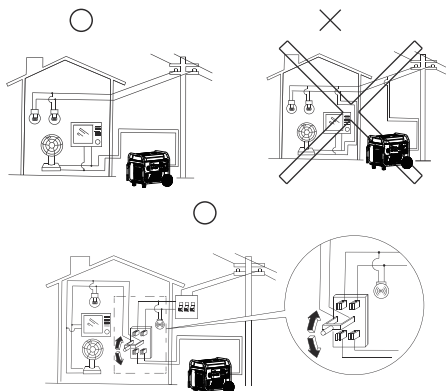
- ・周囲温度 T_r : 298 k (25°C)
- ・空気相対湿度 ϕ_r : 30%
- ・絶対大気圧 P_r : 100 kPa

実際の環境条件が使用環境条件と一致しない場合:

- ・周囲温度が 5°C 上昇することにより、発電機の出力が約2%低下します。
- ・空気相対湿度が30%増加することにより、発電機の出力が約1.5%低下します。
- ・標高が300 m上昇することにより、発電機の出力が約4.5%低下します。

配線接続方法

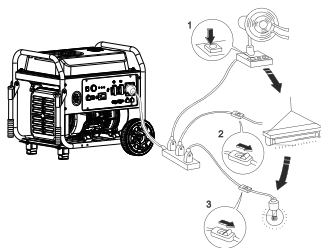
- ・発電機をバックアップ電源として家庭用電源に接続する場合は、電気工事資格者または電気に関する詳しい人が接続してください。
- ・発電機に負荷を接続した後、電気接続が安全で信頼できるものであるかどうかを注意深く確認してください。不適切な電気接続は、発電機の損傷、焼損、火災の原因となります。
- ・発電機を建物などの商用電源には絶対に接続しないでください。
- ・延長線を使用する場合は、その長さを超えないでください。
 - ① 60 m断面積は 1.5 mm^2 です。
 - ② 100 m断面積は 2.5 mm^2 です。
- ・外観は丈夫で弾力性のあるゴムカバー (IEC25) などで保護する延長ケーブルを使用してください。



発電機の使用方

AC電源の取り出し方

1. 周波数切換えスイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。
2. 発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。
3. 「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。数秒後、出力表示灯(緑)が点灯していることを確認します。
4. 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、ACコンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。
5. 電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。
6. 過負荷運転や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯(緑)が消え、過負荷警告ランプ(赤)が点灯し続け、電気が取らせなくなります。この場合、電気機器のプラグを取り外してください。そして、ACリセットスイッチを押してリセットすることで、出力表示ランプ(緑)が点灯し電気の供給が再開されます。



警告



禁止

・電気器具の合計負荷(交流、直流の合計)が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。



指示

- ・発電機に接続する前に、接続するプラグ、コード類に損傷がないか確認して下さい。
- ・接続する電気器具の状態が良好であることを確認して下さい。
- ・精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ(原動機雑音)の影響を受けない距離を確保して下さい。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ(原動機雑音)に影響されないことを確認して下さい。
- ・医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
- ・電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。
- ・コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。
- ・エンジン回転数を上げる前に、エコスイッチを「OFF」に切り替える必要があります。複数の負荷または電気設備で電力を供給する場合は、各電気設備の大きさに応じて大きいものから小さいものまで始めなければならない。

発電機の使用方

⚠ 警告



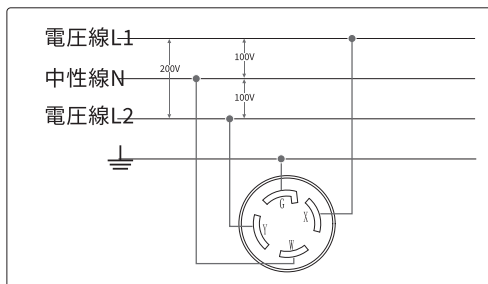
禁止

・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

AC 100V/200V コンセントの使い方

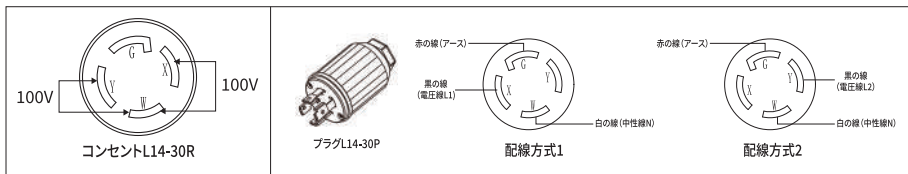
AC100V/200Vコンセントから100Vまたは200V(単相)の電気を取り出すことができます。プラグ側はNEMA規格のコンセントに対応する電源プラグとケーブルを使用し、配線作業を行う必要があります。プラグ側の配線作業に自信がない場合は無理に作業せず、電気工事士などの有資格者にご依頼ください。

配線図



配線方式 (100V)

- ①電源プラグはNEMA規格L14-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用します。
- ②電源コードは3芯、公称断面積3.5mm²(許容電流33A)以上のCVケーブルを使用します。
- ③CVケーブルの黒の線(電圧線L1/L2)は電源プラグの「X」端子または「Y」端子に接続し、白の線(中性線N)は電源プラグの「W」端子に接続し、赤の線(アース)は「G」端子に接続します。



発電機の使用方法

配線方式 (200V)

- ①電源プラグはNEMA規格L14-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用します。
- ②電源コードは3芯、公称断面積3.5mm²(許容電流33A)以上のCVケーブルを使用します。
- ③CVケーブルの黒の線(電圧線L1)は電源プラグの「X」端子接続し、赤の線(電圧線L2)は電源プラグの「Y」端子に接続し、白の線(アース)は「G」端子に接続します。



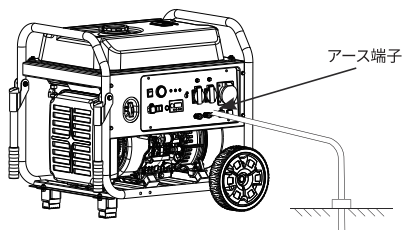
DC電源の取り出し方

- 1.「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.接続する12V車載用電気機器のスイッチが切れていることを確認し、シガーソケットへ車載用電気機器のプラグを確実に差込みます。
- 3.車載用電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷以内)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。

発電機の接地

感電や不適切な電気使用による発電機の損傷を防ぐため、絶縁シース付きの良導体で発電機を接地することを推奨します。





- ①アース線は十分な電気容量を持つものをご使用ください。
- ②アース線の一端を発電機のアース端子に接続します。
- ③接地体(直径5~10mmの鉄の棒)を200mm下の大地に挿入し、導線で導出します。
- ④アース線のもう一方の端を、アース本体のリード線に接続します。



発電機の使用方

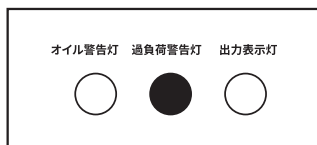
適用範囲

電気器具の合計負荷（交流、直流の合計）が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。

AC				DC
パワーファクタ	1	0.8 ~0.95	0.4 ~0.75 (効率0.85)	
出力電力 (100V/200V)	≤ 2800W(100V) ≤ 5000W(200V)	≤ 2240W(100V) ≤ 4000W(200V)	≤ 1120W(100V) ≤ 2000W(200V)	定格電圧 12V

ご注意

合計負荷が定格電力を超えると、過負荷表示灯が赤点灯します。



サービスとメンテナンス

良好なメンテナンスとサービスは、安全性、経済性、信頼性の高い運用のための最良の保証です。これも環境保護に貢献しています。

発電機を良好な状態に保つためには、定期的な点検とメンテナンスが必要です。メンテナンス計画は次のとおりです。

点検・整備の仕方

定期点検表

対象部品	点検項目	始業点検	初回の1ヶ月後 または 20時間 運転後	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	12ヶ月毎 または 200時間 運転毎
エンジンオイル	・量の点検	●				
	・交換		●※1		●	
燃料	・量、漏れの点検	●				
エアクリーナー	・損傷、劣化の目視と 指触による点検	●				
	・清掃			●※2		
点火プラグ	・点検と清掃				●	
	・交換					●
燃料タンクストレーナー	・汚れ、詰まりの目視点 検および清掃				●	
マフラーワイヤネット	・清掃				●	
外装	・取り付けボルトのゆる み確認			●		

※1 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。

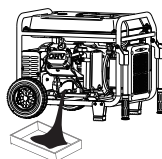
※2 ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

エンジンオイルの交換

1. エンジンを始動し、2～3分暖気運転をしてから停止します。エンジンオイルが排出しやすくなります。
2. 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。
3. オイルプラグを外し、付属のエンジンオイル排出用ホースを取り付けます。
4. オイルを抜いた後、オールドレンボルトを確実に締め付けます。
5. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。
6. 付属のエンジンオイル排出用ホースを外し、オイルジョッキをオイル給油口に差し込みます。
7. 本機を水平にしてエンジンオイルを規定量給油します。エンジンオイルがレベル線の上限付近まで付着していれば適正量です。
8. 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

推奨オイル：4サイクル用エンジンオイル
SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級
以上

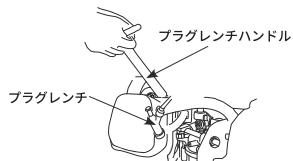
エンジンオイル規定量：0.85L



点検・整備の仕方

点火プラグの点検と清掃

1. プラグレンチハンドル、プラグレンチで点火プラグを取外します。

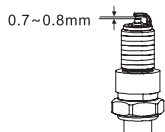


2. スパークプラグの焼け具合を点検します。電極付近は通常キツネ色に焼けますが、黒くくすぶったり白く焼けていたときはパーツクリーナーまたはワイヤーブラシで汚れ(カーボン)を落とします。

3. 電極のすき間を確認し、下記寸法になっていない場合は調整します。中心電極をこじらないでください。破損する恐れがあります。

指定点火プラグ: BPR6ES (NGK)

電極のすき間: 0.7~0.8mm



4. スパークプラグのネジ山に焼き付き防止剤を塗ります。

5. 取り付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。

⚠ 注意



指示

・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

燃料タンクストレーナーの清掃

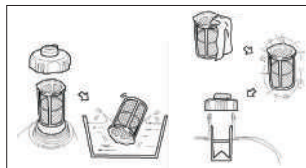
1. エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてエンジンを停止します。

2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。

3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

4. ストレーナをふいて燃料タンクに挿入します。

5. 燃料タンクキャップを取り付けます。



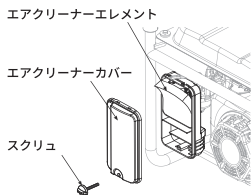
点検・整備の仕方



・ガソリンは引火しやすいので、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。

エアクリーナエレメントの清掃

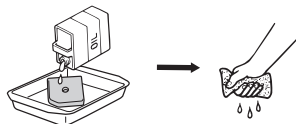
1. スクリューをゆるめて、エアクリーカバーを取り外します。
2. エレメント（空気ろ過部）を取り外します。



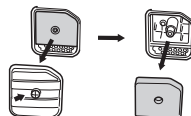
3. 家庭用の洗剤と温水の溶剤でスポンジを洗浄し洗い流すか不燃性もしくは低引火点の溶剤で洗浄し、完全に乾燥させてください。ボロボロ崩れたり、汚れがひどいときは新しいものに交換してください。



4. エレメントをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼります。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。



5. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリューを締め付けます。



点検・整備の仕方

警告



・洗油は引火しやすいので、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。

注意



・エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。
・エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



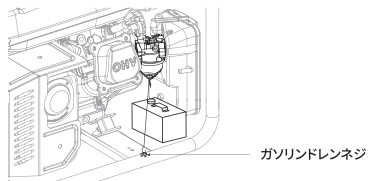
・エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

一時保管・長期保管

使用後または定期運転後、次の使用が3ヶ月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これらを行わないと、故障の原因となります。

一時保管の場合

1.燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



- 2.燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
- 3.燃料タンク内のガソリンを抜いた後、発電機を起動します。(14ページ参照)
- 4.無負荷運転(電気機器は接続しない)を行ってです。エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待ちます。燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。
- 5.エンジンが停止しましたら、排出するガソリンを受ける容器を用意します。
- 6.キャブレターのドレンパイプを容器で受け、ドレンネジをドライバーで弛め燃料を抜きます。キャブレター内のガソリンを抜かず長期放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。
- 7.ドレンネジを締め付け、ドレンパイプを元に戻します。
- 8.エンジンスイッチを「OFF」の位置にし、燃料コックを「OFF」の位置にします。
- 9.室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

長期保管の場合

- 1.“一時保管”の1～9の作業を行います。
- 2.点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを5～10mL給油します。
- 3.リコイルスターターグリップを2～3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。
- 4.リコイルスターターグリップを引き、重くなった状態(圧縮状態)にします。
- 5.各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃します。
- 6.発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

不具合時の対応

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないで買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
エンジンが 始動しない	ガソリンが入っていない	ガソリンを給油する	11ページ
	キャブレターでガソリンが入っていない		
	オイル警告灯(赤)が点灯している→エンジンオイルが入っていない、量が少ない	エンジンオイルを給油する	6ページ
	エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認する	14ページ 15ページ
	チョークノブの位置調整	エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」	8ページ
		エンジンが冷えている場合や冬期は「チョーク」	8ページ
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	23ページ
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	22ページ
	本機が傾いている → オイルアラート機構の作動	水平にする	10ページ
	問題のある燃料、エンジンオイルによるエンジン不調	正しい燃料・エンジンオイルに入れ替え	10ページ 11ページ
エンジンが数分 動いた後止まる	チョークノブの位置調整	起動後、チョークノブを「運転」の位置に戻す	8ページ
	オイルパイプが詰まっている	オイルパイプの清掃	/
	暖気運転が足りない	暖気運転を行う	14ページ
	複数の電気機器を使用するなど急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	/
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	22ページ
	キャブレターが詰まっている	キャブレターの清掃	/
マフラーから白煙 が出る	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して規定量を注入する	11ページ
	SA級など、指定以外のエンジンオイルを使用	指定のエンジンオイルを使用する	11ページ
電気が取り出 せない	過負荷警告灯(赤)が点灯・点滅、出力表示灯が消灯する	過負荷の原因または使用器具の異常を改善する	6ページ
	水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用する	エコモードをOFFにする	7ページ
	シートをかぶせている、または屋内で使用するなどして本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または屋外で使用する	13ページ
回路システム	点火プラグには炭素と湿気が付着している	炭素蓄積を除去し、点火プラグを乾かす。	22ページ
	点火システム不良	JESIMAIKカスタマーサービスに連絡してください。	/

仕様諸元

機種	JM6000XiE	
発電部型式	多極界磁回転型	
相数	単相	
力率	1	
交流(AC)	定格出力	5.0kVA
	定格電圧	100V/200V
	定格電流	50A(100V時)/25A(200V時)
	定格周波数(切替式)	50Hz/60Hz
直流(DC)	定格電圧	12V
	定格電流	8.3A
装備	交流過電流保護装置	電子式
	交流過熱保護装置	電子式
エンジン	エンジン種類	空冷4ストロークOHVエンジン
	総排気量	312cc
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	点火クプラグ	BPR6ES (NGK)
	エンジンオイル	4サイクル用エンジンオイル SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上
	エンジンオイル規定量	0.85L
燃料タンク容量	14.5L	
連続運転時間(ガソリン)	定格連続運転時:約4h 1/4 負荷連続運転時:約9.7h	
騒音レベル(7m)	70dB※2	
始動方式	セルスタート式 / リコイルスタート式	
使用環境温度	-5°C~40°C	
寸法(全長×全幅×全高)	565*465*450mm	
乾燥重量	44kg	

この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

※1:エコモードON時

※2:仕様諸元表に表示した騒音値は、エコモードON(作動中)時で、機側7m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

保証期間およびお問い合わせ

- ・本製品の保証期間はご購入日より一年間となります。
- ・本製品の仕様は予告なしに変更する場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品は使用電子部品の製造中止で、生産及び販売終了となる場合があります。予めご了承ください。
- ・お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご連絡ください。

①商品名

②ご購入先及びご注文番号

③本体の上部に貼られているバーコードラベルでの製造番号

④故障の状況(できるだけ詳しくご説明ください。メールでお問い合わせいただいた場合は不具合症状に関する写真または動画を添付いただけると幸いです。)

・ご不明な点や故障に関するご相談は、ご購入の販売店、または下記営業窓口にお問い合わせください。

メールアドレス



support@jesimaik.com

公式サイト



www.jesimaik.com

受付時間:10:00-13:00、14:30-18:30

(土・日曜、祝祭日・年末年始および当社指定休業日は除く)

輸入総発売元: 株式会社Victoria

保証書

本保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

保証書

品名	JESIMAIKインバーター発電機
品番	JM6000XiE
購入日	年 月 日
保証期間	上記ご購入日より1年間（消耗品を除く）
お客様	ご住所 〒
	電話 ()
	お名前 ----- 様

- 取扱説明書、注意事項などにしたがって正常な使用状態で故障した場合に限ります。
- 保証期間内に前項に該当する故障が発生した場合に限ります。
- 消耗品に関しましては、保証対象外となります。
- 保証期間内でも次の場合は、有料修理となります。
 - *本書のご提示がない場合や、購入日、販売店名の記載がない場合。
 - *使用上の誤り、他店・個人での修理、分解、改造、調整による故障等。
 - *お買い上げ後の移動、落下、天災地変、異常電圧による故障。
- 保証書の発行により、ご購入者の法律上の権利を制限するものではありません。

免責事項

法律上の請求の原因の種類を問わずいかなる場合においても、本製品の使用または、使用不能から生ずる直接損害、間接損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等）、特別損害、付随的損害、経済的拡大被害（逸失した利益、ビジネス上の収益、信用あるいは節約すべきし費用を含む）、他の機器や部品に対するデータの損失または損害、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害（身体障害に起因する死亡及び怪我を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとさせていただきます。

